

作成番号:0183

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2024-183

内容:狭心症での冠動脈バイパス術(CABG)の生存率が男性よりも女性の方が低い理由は?

出典:Intraoperative Anemia Mediates Sex Disparity in Operative Mortality After Coronary Artery Bypass Grafting.

Journal of the American College of Cardiology. 2024 Mar 05;83(9):918-928.

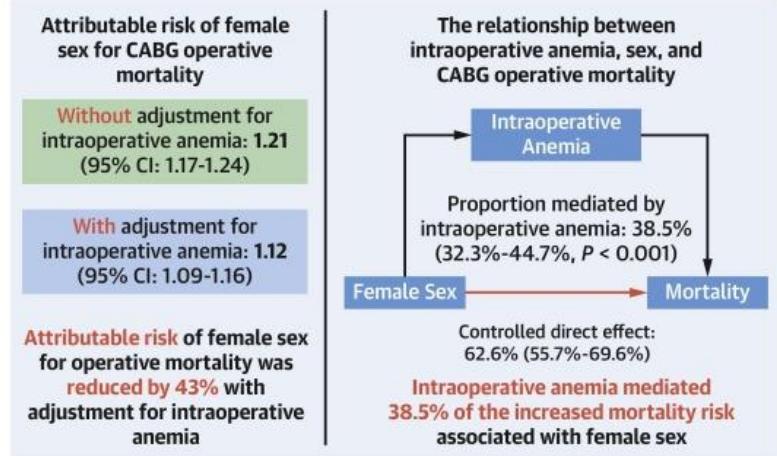
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38418006/>

男性よりも女性の方が冠動脈バイパス術(CABG)の生存率が低いことは以前から知られていたが、その理由を、米ワイル・コーネル・メディシン心臓胸部外科の研究者らが、その説明となり得る研究結果を報告した。その詳細は、「Journal of the American College of Cardiology」に3月5日掲載された。

米国胸部外科学会のデータベース(The Society of Thoracic Surgeons Adult Cardiac Surgery Database)から抽出した、2011年から2022年の間に初めてCABGを受けた成人患者1,434,225人(女性344,357人)を対象にした。主要アウトカムとした手術死亡率に対する女性の性別の影響を寄与リスク(AR)として検討した。その結果、女性は男性よりも手術中の最低ヘマトクリット値(中央値)が低く(22.0%対27.0%)、手術死亡率が高いことが明らかになった(2.8%対1.7%、P<0.001、調整オッズ比1.36、95%信頼区間1.30~1.41)。女性の性別のARは1.21(95%信頼区間1.17~1.24)であったが、手術中の最低ヘマトクリット値で調整すると、1.12(同1.09~1.16)まで43%低下した。媒介分析からは、手術中の貧血が、女性の性別と関連する手術死亡リスクの38.5%を媒介していることが示された。

出血を最小限に抑えることが、CABGを受ける女性の手術死亡率を改善し、性差を縮小するための実行可能な目標となる。

CENTRAL ILLUSTRATION: The Relationship Between Operative Mortality, Intraoperative Anemia, and Female Sex



Harik L, et al. J Am Coll Cardiol. 2024;83(9):918-928.